



名大トピックス

No.124 平成15年9月30日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

名古屋大学説明会が開催される



CONTENTS

- ・名古屋大学説明会を九州、東海(学内)、関東、近畿の4地区で開催する..... 2
- ・祝! 本学が第42回国立七大学総合体育大会で3度目の総合優勝... 4
- ・松尾総長と平尾誠二郎ラグビーワールドカップ日本代表前監督が対談する..... 6
- ・大学院多元数理科学研究科が大談話会を開催する..... 7
- 
 ・ソフトマターの物理学
土井 正男..... 8
- ・第14回日本数学コンクール及び第7回日本ジュニア数学コンクールが開催される..... 10
- ・大学院多元数理科学研究科が数学公開講座「数学アゴラ」を開催する..... 11
- ・博物館が「名古屋大学シルクロード調査会」を立ち上げる... 12
- ・博物館が特別講演会・コンサートを開催する..... 13
- ・附属農場が農業館を利用して連続講演会(第3回)を開催する..... 14
- ・工学部が工学概論第1「がんばれ後輩!」を開講する..... 15
- ・年代測定総合研究センターが大学 Jr. サイエンス「石がいつできたか調べよう」を開催する..... 16
- ・工学部がテクノフロンティアセミナーを開催する..... 17
- ・工学部がテクノサイエンスセミナーを開催する..... 18
- ・国家公務員 種試験第一次合格者への職務内容等説明会が開催される..... 19
- [INFORMATION]
- ・人事院勧告が出される..... 20
- ・「伊藤圭介生誕200年記念展示会・講演会」開催のお知らせ..... 23
- ・本学関係の新聞記事掲載一覧(15年8月分)..... 24
- ・名古屋大学広報用マークのデザインについて..... 26



名古屋大学説明会を九州、東海（学内）、 関東、近畿の4地区で開催する

本学では、大学進学希望者に対し、教育・研究の特色の紹介や施設見学を通じて本学への進学への目的意識を持ってもらうため、学内及び全国各地で大学説明会を開催しています。



文学部懇談会



経済学部デモンストレーション講義

今年度も昨年同様、九州（熊本市：8月1日（金））、東海（学内：8月6日（水）～8日（金））、関東（横浜市：8月19日（火））、近畿（大阪市：8月27日（水））の4地区で開催しました。



法学部ミニ講義

学内での説明会は、6日に文科系学部、7日に工学部以外の理科系学部、8日に工学部の説明会が行われ、3日間を通して4,350名の参加者（6日：1,646名、7日：1,527名、8日：1,177名）があり、豊田講堂内は高校生たちの熱気であふれていました。3日間のいずれも午前中は、豊田講堂内で松尾総長のあいさつ、中島副総長からの全体説明及びビデオによる大学紹介が行わ



工学部施設見学



医学部懇談会

れ、保護者等に対しては、シンポジオンホールでライブ中継を行いました。また、午後からは、それぞれの志望学部に分かれ、学部長はじめ教職員と学生が一体となり、内容に趣向を凝らして懇談会、ミニ講義、研究室公開及び施設見学等が行われました。参加した高校生らは、各会場で教官や在学生と直接懇談したり、自分の進路等について詳しく説明を聞き、熱心に質問やメモを取るなど熱気にあふれ、キャンパスは終日高校生の姿で賑わいました。

なお、8日には台風10号の接近による影響が心配されましたが、幸い全体の企画終了時間までは影響はなく、高校生は雨が降る中、精力的に各研究室を回っていました。



農学部学科紹介

一方、全国各地での説明会は、中島副総長、各学部教授及び関係職員出席の下、開催され、受験生、進路指導教諭等の参加者に対し、本学の教育・研究の概要紹介、大学紹介ビデオの放映、入学者選抜方法の説明、高校生向けの講演等が実施されました。参加者からは、



情報文化学部ミニ講義



教育学部懇談会

入学者選抜方法についての質問や、学生生活、就職及び留学に関する事など、活発な質疑応答が行われました。また、学部教授による講演は大学における授業の一端を紹介する内容で、参加者にはたいへん好評でした。



祝！本学が第42回国立七大学総合体育大会で 3度目の総合優勝

今年度は、本学が主管校となり、7月19日（土）から8月12日（火）まで「第42回国立七大学総合体育大会」が開催され、27種目で熱い戦いが行われました。同体育大会は、北海道大学、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学、本学の七大学が毎年輪番制で当番校となって開催されている定期競技大会で、昭和37年に第1回大会が北海道大学主管で開催されて

以来、約半世紀近くもの間行われている伝統ある大会です。

本学は、今回の大会で圧倒的強さを発揮し、2位以下に大差をつけて3度目の総合優勝を成し遂げました。また、閉会式が8月12日（火）行われ、優勝旗・優勝杯を授与されました。



第42回国立七大学総合体育大会成績表

(平成15年8月12日最終結果)

	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー	-	10	-	8	-	6	-	3	-	1	-	2	-	4
スキー	-	-	-	-	-	2	-	3	-	4	-	6	-	1
航空	-	-	-	6	-	2	-	8	-	3	-	4	-	1
馬術	-	6	-	1	-	4	-	8	-	3	-	-	-	2
柔道	-	5	-	10	-	1.5	-	3	-	1.5	-	5	-	8
少林寺拳法	-	1	-	2	-	4	-	6	-	8	-	10	-	3
ヨット	-	8	-	6	-	2	-	1	-	3	-	4	-	10
空手道	-	1	-	8	-	10	-	6	-	4	-	3	-	2
剣道	男子	3		2		6		8		10		4		1
	女子	3		1		2		4		6		8		10
硬式テニス	男子	1		8		4		10		6		3		2
	女子	3		6		1		8		10		4		2
水泳	-	10	-	1	-	2.5	-	8	-	4	-	6	-	2.5
バスケットボール	男子	3		4		2		6		8		1		10
	女子	1		6		-		8		3		4		2
アーチェリー	-	4	-	3	-	10	-	1	-	6	-	8	-	2
弓道	男子	8		10		6		4		2		3		1
	女子	4		8		2		10		3		6		1
陸上競技	男子	2		3		4		6		8		10		1
	女子	3		4		6		8		1.5		-		1.5
卓球	男子	3		1		6		8		10		4		2
	女子	8		3		6		1		4		-		2
ソフトテニス	男子	8		3		1		6		4		10		2
	女子	4		1		-		8		6		2		3
ハンドボール	-	3	-	1	-	4	-	10	-	6	-	2	-	8
バレーボール	男子	6		4		10		3		2		8		1
	女子	3		2		1		10		4		6		8
体操	-	4	-	8	-	3	-	6	-	10	-	2	-	1
硬式野球	-	4	-	1	-	6	-	8	-	10	-	2	-	3
バドミントン	男子	10		8		1		3		6		2		4
	女子	6		4		3		10		2		8		1
フェンシング	-	6	-	10	-	2	-	3	-	8	-	4	-	1
ゴルフ	-	2	-	6	-	8	-	10	-	4	-	3	-	1
準硬式野球	-	2	-	3	-	1	-	6	-	-	-	8	-	4
ラクロス	-	4	-	1	-	6	-	2	-	3	-	-	-	-
自動車	-	4	-	3	-	6	-	8	-	1	-	2	-	10
総合得点	153.0		156.0		141.0		221.0		175.0		154.0		118.0	
総合順位	5位		3位		6位		1位		2位		4位		7位	





松尾総長と平尾誠二ラグビーワールドカップ 日本代表前監督が対談する

スポーツNPO法人「シックス」による対談企画として、ラグビーワールドカップ日本代表前監督である平尾誠二氏が、8月11日（月）松尾総長を訪れ、組織経営・リーダーシップ・教育等の問題を1時間にわたり語り合いました。平尾氏は、神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャーであり、また、「シックス」の理事長も務め、スポーツを通じた人材育成・社会貢献・国際事業に尽力しています。シックス・ホームページにおける対談シリーズには、各界の著名人が名を連ね、広く実業界からも注目されていますが、今回の対談は、その第10回企画として実現したものです。

当日は、本学ラグビー部全員によるラグビー独特の歓迎セレモニー「エール」で平尾氏を出迎えました。同氏は、総合保健体育科学センター・マネジメント研究グループにも参画しており、東海地区におけるスポーツ・教育振興にも協力したい意向を持っています。学生時代に山岳部に所属し、スポーツに造詣の深い松尾総長と、史上最年少（当時34歳）で日本代表監督に抜擢され、組織マネジメントに対する研究執筆・講演も多い平尾氏との談義は大いに弾みました。なお、対談の詳細は今秋、シックス・ホームページ（<http://www.scix.org>）に掲載されます。



松尾総長



対談する松尾総長（左）と平尾誠二氏（中央）



平尾誠二氏



大学院多元数理科学研究科が大談話会を開催する

大学院多元数理科学研究科が7月18日(金)、理学部1号館において大談話会を開催しました。同研究科は、今年度より「数学と他分野との連携」及び「他研究科との交流の活性化」を目的として理学部数学科の時代から長い歴史をもつ談話会を新装しました。新談話会は、月1・2回開催され、講演者には、自身の成果を含めた最新の研究動向の紹介とともに、専門外の研究者や学生にも理解してもらえるように分野の概要や問題の背景の解説に十分時間をかけて話してもらうことにしています。

また、7月は、夏休み前ということで半年に一度の大談話会が開催され、庄司俊明同研究科教授による「有限 Chevalley 群の既約表現」及び野海正俊神戸大学自然科学研究科教授による「楕円パンルヴェ方程式と楕円超幾何方程式」の2つの講演が行われました。

庄司教授の講演は、有限 Chevalley 群の既約指標の分類・決定に関するもので、19世紀末の問題の発端から説き起こして1980年代以降の Lusztig 氏の幾何学的方法による解決のためのプログラムと講演者による主

要部分の解決について話しがあり、問題の解決が近いことを予感させました。

また、野海氏の講演は、やはり19世紀末に誕生したパンルヴェ方程式のこの数十年の代数化・幾何学化の過程から、神戸大学のグループによる射影平面の9点配置上の離散力学系としての離散パンルヴェ方程式系の定式化とその超幾何型特殊解の構成についての最近の結果に及び、ソリトン方程式の日本の研究レベルの高さを如実に表していました。

大談話会には、研究科内外から多くの方々が参加し、講演を楽しみました。引き続き行われたワインパーティーでも数学の話などに花を咲かせていました。また、宇澤 達同研究科教授を拠点リーダーとする「等式が生む数学の新概念」が21世紀 COE プログラムに採択されたことを祝う会ともなりました。

なお、同研究科の談話会の予定は、下記で見ることができます。

<http://www.math.nagoya-u.ac.jp/local/seminar/>



庄司教授による講演



ワインパーティーで歓談する野海氏



ソフトマターの物理学

土井正男

ソフトマターとは我々の体をつくっている生体物質のように柔らかな物質の事です。金属、セラミックのような固い物質（ソリッドマター）に対比してゲルや高分子のような、構造の乱れた柔らかな系を対象としています。ソリッドマターを扱う物理学が、固体物理学という確固とした体系を作っているのに対して、ソフトマターの物理学は使われ始めてまだ10年もたっていない新しい言葉です。

私はソフトマターのやわらかさを物理学の立場から研究してきました。やわらかさといっても、物理学の言葉ではなかなか表現しづらいものです。たとえば、冷蔵庫で冷やしたプリンを作ることを考えてみましょう。冷蔵庫に入れる前のプリンの状態は液体であり、うっかり容器を傾けるとこぼれてしまいます。冷えて固まると、プリンを入れた容器と同じ形を持つようになります。お皿のうえのプリンをスプーンで押すと変形しますが、放すともとの形に戻ります。プリンはスプーンで切り取って食べることができます。これらの現象を物理学の言葉で記述しようとするといへんに難しいことです。

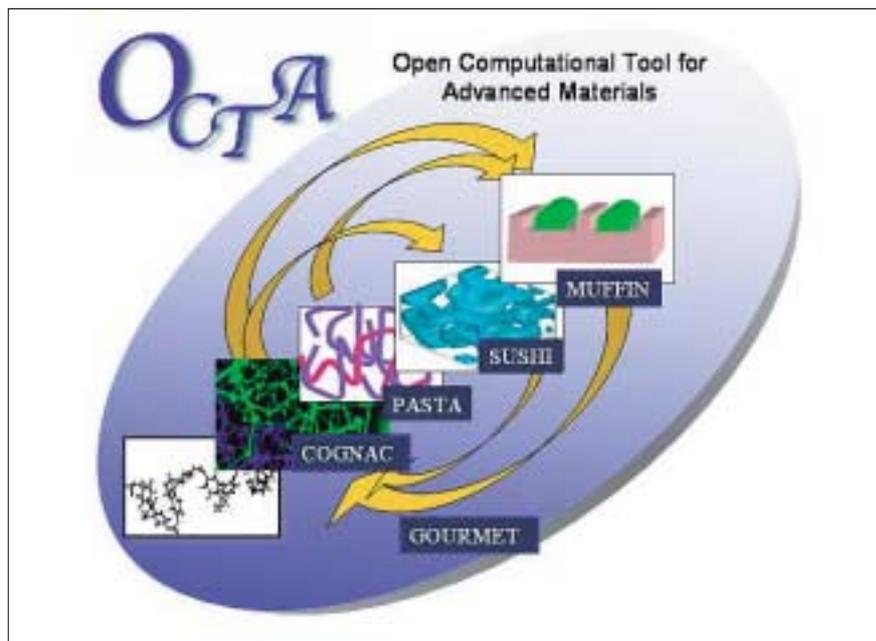
物理学の言葉で記述するという事は、ニュートンが星の運動を記述したように、プリンが固まって、食べられるまでの過程を記述する理論の体系を作ることです。プリンの固さと冷蔵庫の温度はどんな関係にあるのか、最初に入れる卵の量とプリンの固さはどんな関係にあるのか、などを記述する理論を作ることです。

そんな研究のどこが面白いのか、プリンの理論を作ることになんの意味があるのか、ということを知りたいので、理由を説明しておきます。プリンが固まる現象は、いろいろなところで重要な問題です。た

例えば、集積回路を作るときには、高分子の液体を塗って、乾燥させて固めた後、回路のパターンを描いた後、不要な部分を洗い出すということが繰り返されています。医療の現場では、新しいソフトマテリアルを使った新しい治療法の研究が行われています。（歯の治療を受けた人なら、口の中で固まるたくさんの高分子が使われていることを知っているでしょう。）ソフトマターの物理は、ナノテクノロジー・バイオテクノロジーと密接に関連しています。半導体工業が固体物理学と相互作用しながら発展していった歴史を見ると、ソフトマターに対するきちんとした学問の体系を作っていくことは非常に大切であると考えています。

私は1998年から、ソフトマターの物理学で展開されてきた理論を応用に結びつけることを目的に、企業の人と協力してソフトマターについてのシミュレータを開発してきました。このシミュレータの目的は、ソフトマターのミクロな特性と、材料的な特性を結びつけることです。シミュレータの名前はOCTAといいます。OCTAはOpen Computational Tool for Advanced material technologyの頭文字を取ったものですが、名古屋大学の前身である第八高等学校の八をも表しています。

OCTAの特徴は多階層系のシミュレータということです。ソフトマターには、分子のスケール、分子集合体のスケール、分散状態のスケールなど、さまざまなスケールの問題が存在します。材料を開発する上ではそれらの構造をすべて制御する必要があります。このようなシステムをシミュレーションするために、ソフトマターの問題をいくつかの階層に分け、それぞれの階層ごとのシミュレータを統合するというマルチスケールモデリングの考え方を提唱し、世界ではじめ



てそのようなシミュレータを作りました。

OCTA は商用化のための開発が進められています。一方で私たちはフリーソフトとしてのOCTAの発展を目指して、さまざまな、講習会、夏の学校、研究会活動を行っています。フリーソフト版は <http://octa.jp> から誰でもダウンロードできます。平成14年度からはOCTAをベースにして、バイオ分野に展開するプロジェクトが科学技術振興事業団に採択されました。私たちは今後もOCTAを発展させるための研究と活動を行ってゆく決意です。

プロフィール

どい まさお

1948年生まれ。1974年東京大学工学部博士課程中退。同年東京都立大学助手、助教授を経て、1989年8月から名古屋大学工学部教授。1997年4月から同大学院工学研究科教授。1998年から2002年まで“高機能材料設計プラットフォームの研究開発”プロジェクトリーダー。2003年2月から高等研究院流動教官を兼任。著書に The theory of polymer dynamics、Introduction to polymer physics などがある。高分子学会賞、日本IBM科学賞、アメリカ物理学会高分子賞、アメリカレオロジー学会ピンガム賞、レオロジー学会賞受賞。ベルギーカソリック大学名誉博士称号授与。





第14回日本数学コンクール及び 第7回日本ジュニア数学コンクールが開催される

第14回日本数学コンクール及び第7回日本ジュニア数学コンクールが、8月10日（日）情報文化学部をメイン会場（その他に大阪会場の清風高等学校、三重会場として津高等学校、四日市高等学校）として開催されました。

新しい科学と技術の開拓を担う夢とロマンを秘めた青少年の能力の伸長を図るため、日本数学コンクールは、平成2年から高校生を対象に、また、ジュニアコンクールは、平成9年から中学生を対象に開催されています。



昼食を食べてほっと一息つく参加者



実験に取り組む参加者

当日は、東京都や滋賀県等の遠方からの参加者も含め約390名の小・中・高校生の参加がありました。参加した生徒は、紙のうえで数式を使って問題を解くのではなく、実際に与えられたゴムと棒を使って色々な形の模型を作り、そこからバランスとは何かを数学的に表す問題等に真剣にかつ楽しそうに取り組んでいました。

なお、同コンクールの優秀者の表彰式や参加者であ

れば誰でも出席できる問題の解答・講評会が、例年通り11月3日（月）の文化の日にシンポジオンホールで行われます。



真剣に解答する参加者



大学院多元数理科学研究科が 数学公開講座「数学アゴラ」を開催する

大学院多元数理科学研究科は、8月4日(月)から6日(水)の3日間、数学公開講座「数学アゴラ」を開催しました。同講座は、数学とその応用に興味のある高校生を対象に、大学で学ぶ数学、更にもっと先にある最先端の数学の面白さを分かりやすく伝えることを目的とした集中コース形式の講座です。平成6年度に文部省のパイロット事業として始まったもので、文部省の事業としては平成13年度に終了しましたが、その後も同研究科が主催する事業として継続し、昨年度からは文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業とも一部連携しています。



講義を熱心に聞く高校生



原 隆助教授による講義

今回は、愛知県、岐阜県及び三重県内の高校生70名、参加者が在籍する高等学校の数学教師6名、特に熱意のある中学生2名の計78名の参加があり、理1号館の509室で、同研究科のスタッフによる3日間の講義が行なわれました。また、2日目の夕方には、理学部数理学科の学生と参加した高校生とのふれあいコーナーが設けられ、自由な話し合いが行われました。

講義内容は、(A)「パズルと数学 - 対称群の世界」(庄

司俊明同研究科教授)、(B)「確率論で見る自然現象」(原 隆同研究科助教授)、(C)「4元数と8元数の世界 - 複素数を越えた宇宙 -」(菅野浩明同研究科助教授)、(D)「数の世界(有理数と無理数)」(谷川好男同研究科助教授)で、(A)と(B)は1時間ずつ3回、(C)と(D)は1回のみ1時間の講義でした。高校で学んでいる数学とは全く違う題材をも数学として平気で扱ってしまう現代数学の間口の広さに感銘を受けた高校生も多く、また、講義も分かりやすいと概ね好評でした。



大学生とのふれあいコーナー



博物館が「名古屋大学シルクロード調査会」を立ち上げる

博物館では、平成14年11月から平成15年7月の間に2回のアフガニスタン特別展(「遙かなるアフガニスタン 名古屋大学中央アジア栄養適応調査 - 1968 - 」、「失われた文化財 - アフガニスタン パーミヤン展」)を開催しました。こうした特別展や特別展関連の講演会を通して、本学には40年以上にわたる中央アジア研究の蓄積が多くあるにもかかわらず、関係者をつなぐネットワークがないことが分かってきました。

アフガニスタン特別展を一過性のものとせず、博物館の目指す異分野交流と本学関係者による中央アジアの学際研究を活性化させることを目的として、6月30日(月)に関係者が集まり、「名古屋大学シルクロード調査会」を発足させました。この集まりは、同日の夕方に行われた清水哲太氏(トヨタ自動車(株)副社長)とナジブラ・モハバット氏(セントラルスプリング社長)による「アフガニスタンと名古屋大学」という特別講演会(本誌123号14ページ参照)にあわせて計画され、講演会終了後に学内のグリーンサロン東

山で行われました。発足会には、講師のお二人とともに、前田耕作(和光大学名誉教授)、安田暎胤(薬師寺副住職)、藤井知昭(元国立民族学博物館副館長)、高橋 昭(名古屋大学名誉教授)、赤沢 堯(名古屋大学名誉教授)の各氏をはじめとする1964年・1969年のアフガニスタン調査隊のメンバー、宮治 昭文学研究科教授と美術史学講座の大学院学生、環境学研究科の大学院学生、理学部の4年生、博物館の教官(足立、西川、蛭薙、吉田、東田)ら総勢20名が参加しました。

調査会の発足を祝う乾杯の後、高橋名誉教授秘蔵の1969年撮影のスライドショーがあり、当時の調査風景や若き日のナジブラ氏らの姿に歓声があがり、昔話に花が咲きました。また、大学院学生がベテラン研究者に研究の夢の部分や現地情報を直接聞くなど、和気あいあいとしたなかで意見交換が行われました。今後、本学関係者によるシルクロード地域の文化と自然を中心に幅広く調査を行っていくことで意見が一致し、盛会のうちに終了しました。



「名古屋大学シルクロード調査会」の発足会への参加者



博物館が特別講演会・コンサートを開催する

博物館は、第6回特別展「失われた文化財 アフガニスタン パーミヤン展」の最後を飾る関連企画として、二回の講演会と博物館コンサート(NUMCo)を開催しました。

7月11日(金)には、元国立民族学博物館副館長の藤井知昭氏による第25回特別講演会「文明の十字路口 アフガニスタンの文化」が行われ、会場の博物館講義室は約150名の参加者で超満員になりました。1964年の名大調査隊に参加して以来の現地での豊富なフィールド調査の体験をもとにした藤井氏の時空を超えた熱のこもった講演に刺激され、聴衆からの質疑応答がやみませんでした。アフガニスタンが「文明の十字路口」といわれるのは、地中海世界と中国(さらに日本まで)を結ぶ交流軸と、北方遊牧文化と南方農耕文化とを結ぶ軸が交差する場所であるからですが、これを同氏は、パーミヤンの楽人楽舞壁画などに即して詳しく解説されました。また、ハザラ族で歌われている4行詩が中世ペルシャで大流行した“ライラとマジジュン”などの叙事詩とほとんど同じであることなどから、アフガニスタンにおける伝承の強さや文化の深さを痛感したと述べられました。

同日の夕方には、第8回博物館コンサートとして、チェンバロ(横手多佳子氏)・バイオリン(恒川妃翠氏)・チェロ(Weitzer 朝恵氏)によるバッハのソナタなどの演奏が

行われ、約100名の聴衆が夕暮れの音楽会を楽しみました。

また、7月24日(木)には、東京芸術大学大学院美術研究科教授の長澤市郎氏と同研究科助手の建石 徹氏による講演会が開催され、約100名が参加しました。長澤氏は、日本国内や海外で多くの文化財の保存・修復作業に携わり、その現場での経験から「美をまもる-文化財保存修復の現場から-」と題して話されました。修復とはどうあるべきなのか、また、修復作業は実際にどう行われ、どんな苦労があるのか等について、スライドを用いて詳しく紹介されました。また、建石氏は、昨年より開始された東京芸術大学のアフガニスタン文化支援事業の全てに実働隊として参加され、「アフガニスタン文化復興支援活動の一例-東京芸術大学の活動を中心に-」と題して話されました。アフガニスタンでは今何が求められているのか、そして日本のできる支援について、臨場感あふれるスライドとともに紹介されました。講演後の質疑応答では、会場から多くの質問が出され、活発な意見交換が行われました。

なお、特別展会期中に5,000人を超える入館者があり、5,000人目とその前後の入館者に記念として、認定証と“運気をもたらす石”とされるアフガニスタン産のラピス・ラズーリが贈られました。



講演する藤井氏



第6回特別展の5,000人目の入館者(中央)と前後の方々



附属農場が農業館を利用して 連続講演会（第3回）を開催する

大学院生命農学研究科附属農場は、農業館を利用した連続講演会の第3回として、7月19日（土）柴田叡弍生命農学研究科附属演習林長による「森の伝染病-松くい虫-」と題する講演を開催しました。

講演は、松くい虫の被害が発生している地域のスライド映写から始まり、住宅地から森林地帯まで広い範囲で被害が発生していることが説明されました。この原因は、マツノマダラカミキリとマツザイセンチュウの相利共生によってマツに被害を与えるものであり、カミキリムシが羽化するときにセンチュウを体に付着して枯れたマツから飛び立ち、新鮮なマツの小枝を食べて成熟します。この時にセンチュウが健全なマツへ伝播します。現在のところ、センチュウがマツに入るとマツが枯れる原因は不明のようです。参加者は、松くい虫の被害状況及び2種の生物がともに働いてマツ材線虫病が発生する仕組みを理解することができました。

また、日本における松くい虫の被害について説明があり、参加者は、松くい虫の被害が20世紀初頭に長崎市周辺で観察され、その後、九州・山陽地方に広がり、現在では青森県と北海道を除いた地域で発生していることを理解し

ました。このような被害の拡大には、マツ材線虫病に感染しているマツを公共土木工事に用いたことが原因となっている場合も多く見られました。松くい虫の被害を防ぐには、「マツ-マツザイセンチュウ-マツノマダラカミキリ」の関係を考慮し、薬剤散布及び感染マツの焼却が必要であり、センチュウに抵抗性のあるマツの品種を育てることも行われているようです。

講演とともに、生きたマツノマダラカミキリの展示があり、また、顕微鏡でマツザイセンチュウの観察も行われ、参加者は、松くい虫の被害についてより一層理解を深めることができたようでした。

なお、今後の講演会の予定は以下のとおりです。

第4回 9月20日（土）

講師：松田 幹生命農学研究科教授

演題：「食の安心・安全について-バイオ農産物との関係-」

第5回 10月18日（土）

講師：長谷川明子氏（東海地区ピオトープを考える会会長）

演題：「ピオトープと都市住民」

第6回 11月22日（土）開催予定



講演する柴田演習林長



顕微鏡を覗き込む参加者



工学部が工学概論第1「がんばれ後輩!」を開講する - 先輩の経験談から、感じ、吸収し、生かせ! -

工学部は、7月24日(木)、25日(金)の両日、工学概論第1「がんばれ後輩!」を1年生を対象に開講しました。同科目は、社会の第一線で活躍されている同学部卒業生の先輩を講師に招き、工学を学ぶ意義や面白さをそれぞれの体験に基づき講義してもらうもので、学生に夢を与え、工学部出身者に必須の対人的かつ内面的な人間力を涵養し、その後の勉学の指針を与えることを目的に例年実施しているものです。

当日は、145名もの学生が受講し、熱心に先輩の話に聞き入っていました。受講後のレポートによれば、「大学に入って目標を失いかけていたが、先輩の話聞いて、目標を持って生きていくことの重要性を改めて認識した。」「今後の大学生活をどう過ごしていくべきかについて考えさせられた。」「今後、日本が世界の競争に打ち勝つためには、大学、企業における研究・

技術開発が必要であると思った。」等々、まだ大学生活を始めて間もない学生達にとって、これから先の大学生活、とりわけ工学部学生として何を学ぶべきなのかを問いかけるきっかけとなり、受講した学生にとって実りあるものとなりました。

(講義日程)

7月24日(木)

10:30~12:00 (株)アイシン精機常勤監査役

水野清史氏

13:00~14:30 (株)JFE スチール専務執行役員

スチール研究所長 藤井徹也氏

7月25日(金)

13:00~14:30 (株)花王素材開発研究所所長

近藤昭裕氏



講義をする水野氏



講義をする藤井氏



講義をする近藤氏



年代測定総合研究センターが 大学 Jr. サイエンス「石がいつできたか調べよう」を開催する

年代測定総合研究センターは、7月28日（月）から30日（水）までの3日間、大学 Jr. サイエンス「石がいつできたか調べよう」を開催し、愛知県内及び近県から小学5・6年生20名、中学生19名、保護者や引率の学校長・担任5名の参加がありました。

同プログラムでは、仲井 豊愛知教育大学名誉教授と柴田 賢 元年代測定資料研究センター長を特別講師に招き、1日目に、バスで愛知県東部の本宮山に出かけて地質調査(珪線石 - 黒雲母片麻岩の調査)と岩石試料採集を行いました。また、2日目は、年代測定総合研究センターで、ジルコン分離、チャイム年代測定及び岩石薄片の偏光顕微鏡観察を行い、さらに、3日

目は、分析結果をグラフにまとめて岩石ができた年代を計算しました。小中学生には難しい実験もありましたが、それを克服して、本宮山の变成岩が1億年前でできたことをつきとめました。最後に、全員に参加証が手渡され、分離したジルコンのプレパラートとともに、大切に持ち帰りました。

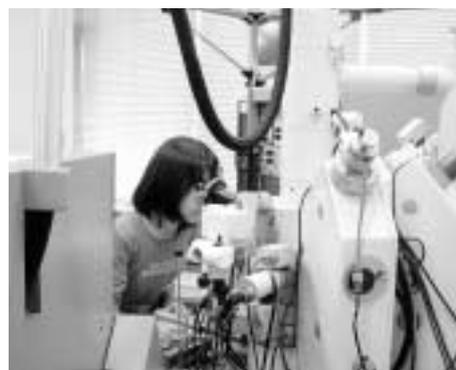
同センターには、参加した児童・生徒から、わからなかったことや家族旅行で採取した石のことなど、いろいろな質問が届いています。また、学校長等からは、児童・生徒の受け入れを感謝するとともに、同プログラムの継続と担任の参加枠拡大を希望する手紙や電子メールも寄せられました。



岩石の採集



ジルコンの分離



チャイム年代測定



本宮山の珪線石 - 黒雲母片麻岩の調査を終えて山頂駐車場で記念写真



工学部がテクノフロンティアセミナーを開催する - 触れてみよう、電子と情報の最先端に -

工学部は、8月4日(月)から6日(水)までの3日間、テクノフロンティアセミナーを開催し、愛知県内の21の高等学校から高校生29名が参加しました。

同セミナーは、若年層の理工系離れが指摘されている近年の状況を深刻に受け止め、高校生を対象に、社会との関わりがより強い工学について啓発することを目的に、電子・情報分野の最先端の研究を実験を通じて理解し、工学の面白さを体験する中で興味を深めてもらい、大学進学を控えた参加者が進路を決定する上で参考にしてもらうために毎年実施されているものです。また、参加者全員がユースホステルに宿泊し、新しい友達との交流を図ることや食堂等の大学施設を利用して、大学生活の一端を体験できることも特徴の一つになっています。

初日は、実行委員会代表の松村年郎工学研究科教授によるあいさつに続き、実験担当者及び参加者の自己紹介と今後のスケジュールについての説明が行われました。その後、参加者は、実験テーマ別に6つのグループに分かれ、同学部の教職員及び大学院学生達のアド

バイスの下、電気電子・情報工学科の各実験室で課題実験に取り組みました。

2日目は、実験の途中で中部電力名城変電所を見学し、最終日には、3日間の実験の成果が各グループごとに発表された後、実行委員会代表から参加者全員に修了証書が手渡され、セミナーは終了しました。

なお、今回の実験テーマは、次のとおりです。

- (A) 超音波センサを用いた自走ロボットコントロール
～ 迷路を進むロボットを作ろう～
- (B) 極低温と超電導の世界を操る
～ 超電導線への大電流通電～
- (C) 音を光に変える
～ 光ファイバによる音声多重伝送～
- (D) マイナスイオンでリフレッシュ！
～ プラズマによる空気洗浄～
- (E) ロボットのしくみを理解する
～ 書道ロボットを作ろう～
- (F) ソフト電卓を作ってみよう
～ ウィンドウプログラムとツールによる計算式の解析～



実験テーマ(A)に取り組む高校生



実験テーマ(E)に取り組む高校生



工学部がテクノサイエンスセミナーを開催する - 体験：航空宇宙工学@名大 -

工学部は、8月11日（月）、工学部2号館及び航空・機械実験棟において、東海地方の高校生を対象に「テクノサイエンスセミナー」を開催しました。同セミナーは、高校生に、大学で行っている最先端の研究に触れ、研究者と交流する中で何かを感じてもらい、工学に対して新たな興味を持ってもらうことを目的に、平成8年度から毎年テーマを変え開催しているもので、好評を得ています。本年度は、「体験：航空宇宙工学@名大」をテーマに機械・航空工学科航空宇宙工学コースの教官が担当し実施されました。

同セミナーには、Webサイトなどで告知したこともあり、東海地方の高校生を対象としていたにもかかわらず、全国から62の高等学校に在籍している計147名の

応募がありました。定員の関係もあり、当日は抽選で選ばれた45名が参加しました。午前中は、参加者全員で航空宇宙工学コースの紹介及び航空宇宙機の歴史と将来構想についての解説を受け、その後、参加者は6班に分かれ、航空宇宙工学のそれぞれの分野に関する講義を受講しました。昼食と研究室見学を行った後、午前中に行われた講義に関連する実験が実施され、参加者は、講義を通じて得た知識を実験により再確認しながら、航空宇宙工学を体験しました。そして、航空機やロケットの航行を成立させている科学技術に触れ、将来に対する大きな夢を膨らませつつ、セミナーは終了しました。



倒立振子の実験を行う高校生



国家公務員 種試験第一次合格者への 職務内容等説明会が開催される

国家公務員 種採用試験第一次合格者に対する本学の職務内容等についての説明会が、7月31日(木)、シンポジオンホールにおいて開催しました。

同説明会は、国家公務員を志望し就職活動を行っている人を対象に、文部科学行政を含め、大学の使命、業務内容等をより深く理解してもらうために例年行われているものです。

説明会は、金子人事課長のあいさつ、本学の教育・研究活動、管理運営等の概要紹介の後、採用後従事することとなる具体的な職務内容等について、詳細に説

明が行われ、179名の参加者は、それぞれ真剣に説明に聞き入っていました。

また、より詳しく本学の業務内容等を照会するための官庁訪問についても、一次合格発表の翌日である7月26日(土)から8月12日(火)の期間受け付け、期間中延べ351名の一次合格者が訪れました。官庁訪問は、人事担当者からより具体的な説明を行うとともに訪問者からの質問に答える方式で行われ、法人化に向けた大学の取り組み等について、熱心にメモをとる姿が見られました。



説明を聞く参加者



あいさつをする金子人事課長

INFORMATION

人事院勧告が出される

人事院は、8月8日（金）国会及び内閣に対して、国家公務員給与改定の勧告、公務員人事管理の改革に関する報告を行いました。

主な内容は、次のとおりです。なお、公務員制度改革に関する報告の骨子については、省略しました。

給与勧告の骨子

本年の給与勧告のポイント

平均年間給与は5年連続、かつ、過去最大の減少

（年収 16.3万円（月例給 1.1%と期末・勤勉手当 1.5%を合わせて 2.6%））

官民給与の逆較差（1.07%）を是正するため、2年連続で月例給の引下げ改定

- 俸給月額引下げ、配偶者に係る扶養手当の引下げ、自宅に係る住居手当の支給対象を限定

期末・勤勉手当（ボーナス）の引下げ（0.25月分）

通勤手当の6箇月定期券等の価額による一括支給への変更、調整手当の異動保障の見直し

本年4月からこの改定の実施の前日までの期間に係る官民較差相当分を解消するため、4月の給与に較差率を乗じて得た額を基本として、12月期の期末手当で調整

1 給与勧告の基本的考え方

- ・ 公務員給与が民間給与を上回った場合においても、官民給与の精確な比較により公務員給与の適正な水準を確保することが、情勢適応の原則にかなうものと判断
- ・ 配分、改定実施までの官民較差相当分の調整方法等については、各府省の人事当局や職員団体の意見を十分に聴取し検討

2 官民給与の比較

約8,100民間事業所の約36万人の個人別給与を実地調査（完了率93.5%）

月給例 官民の4月分給与を調査（ペア中止、定昇停止、賃金カット等を実施した企業の状況も反映）し、職種、役職段階、年齢、地域など給与決定要素の同じ者同士を比較

ボーナス 過去1年間の民間の支給実績（支給割合）と公務の年間支給月数を比較

官民較差（月例給） 4,054円 1.07%〔行政職...現行給与 377,535円 平均年齢41.0歳〕

（俸給 3,459円 扶養手当 209円）
（住居手当 173円 はね返し分 213円）

3 改定の内容と考え方

月例給 官民較差（マイナス）の大きさ等を考慮し、月例給を引下げ

(1) 俸給表：すべての級のすべての俸給月額について引下げ

行政職俸給表 級ごとに同率の引下げを基本とするが、初任給付近の引下げ率は緩和、管理職層の引下げ率は平均をやや超える率（平均改定率 1.1%）

指定職俸給表 行政職俸給表の管理職層と同程度の引下げ（改定率 1.2%）

その他の俸給表 行政職との均衡を基本に引下げ

(2) 扶養手当 配偶者に係る扶養手当の支給月額を500円引下げ（14,000円 13,500円）

(3) 住居手当 自宅に係る住居手当を新築・購入から5年間（2,500円）に限定（月額1,000円に係るものは廃止）

(4) 通勤手当 ・6箇月定期券等（交通機関等利用者）の価額による一括支給を基本とすることに変更するとともに、2分の1加算措置を廃止し、55,000円まで全額支給
・交通用具使用者に係る通勤手当について片道40km以上の使用距離区分を4段階増設

(5) 調整手当 ・いわゆる「ワンタッチ受給」防止のため、異動前の調整手当支給地域における在勤期間が6箇月を超えることを要件化
・異動保障の支給期間（現行3年間）を2年間とし、2年目の支給割合は現行の80/100

(6) その他の手当

委員、顧問、参与等の手当 指定職俸給表の改定状況等を踏まえ支給限度額を引下げ（38,400円 37,900円）

医師の初任給調整手当 ・医療職（一） 最高 311,400円 307,900円
・医療職（一）以外（医系教官等） 最高 50,800円 50,200円

期末・勤勉手当等（ボーナス） 民間の支給割合に見合うよう引下げ 4.65月分 4.4月分

（一般の職員の場合の支給月数）

		6月期	12月期
本年度	期末手当	1.55月（支給済み）	1.45月（現行1.7月）
	勤勉手当	0.7月（支給済み）	0.7月（改定なし）
16年度	期末手当	1.4月	1.6月
	勤勉手当	0.7月	0.7月

[実施時期等] 3の(1)(2)(3)(6)及び期末・勤勉手当等の改定については、公布日の属する月の翌月の初日（公布日が月の初日であるときは、その日）から実施。3の(4)及び(5)の改定については、平成16年4月1日から実施。

本年4月からこの改定の実施の日の前日までの期間に係る官民較差相当分を解消するため、4月

の給与に較差率を乗じて得た額に4月から実施の日の属する月の前月までの月数を乗じて得た額と、6月期のボーナスの額に較差率を乗じて得た額の合計額に相当する額を、12月期の期末手当の額で調整。

その他の課題

- (1) 教育職俸給表の検討 国立大学の法人化等に伴い、教育職俸給表の在り方等について早急に必要な改正を行うため検討
- (2) 寒冷地手当の実態の把握 速やかに全国的な調査を実施し、調査結果を踏まえて検討
- (3) 特殊勤務手当の見直し 手当ごとの実態等を精査して廃止を含めた見直し等を検討
- (4) 月例給の比較方法の見直し 行政職俸給表(二)を来年から比較の対象外とする方向で検討
- (5) 特別給の算定方法の見直し 民間の特別給の前年冬と当年夏の実態調査に基づき特別給を改定
- (6) 独立行政法人等の給与水準 役職員の給与水準の公表に向けた検討への協力

4 給与構造の基本的見直し

- ・公務内外の大きな環境変化の下、地域の公務員給与の在り方について、国民の関心の高まり
 - 地域における公務員給与は民間に比べ高く、公務員給与の地域差は民間に比べ不十分との指摘
- ・職務・職責を基本に勤務実績・業績を重視した制度となるよう給与全般の見直しを行いつつ、民間給与の地域差に対応できる仕組みとするなど、全体として整合性の取れた形での見直しが必要
 - 「地域に勤務する公務員の給与に関する研究会」の基本報告(本年7月)でも同様の認識・提言
- ・今後とも、労働基本権制約の代償機能を適切に果たすべく、各府省、職員団体等と積極的に意見交換を行いながら、早期に具体化が行えるよう検討
 - 昇給制度を含めた俸給構造の見直し、民間給与の地域差に対応できるよう地域関連手当を再構築、スタッフ職を念頭においた新俸給表の設定、人事評価システムの整備など

【参考】モデル給与例

(単位：円)

			勧告前		勧告後		年間給与の減少額
			月額	年間給与	月額	年間給与	
係 員	25歳	独身	185,600	3,090,000	184,400	3,024,000	66,000
	30歳	配偶者	237,300	3,931,000	234,600	3,829,000	102,000
係 長	35歳	配偶者、子1	319,700	5,365,000	315,900	5,219,000	146,000
	40歳	配偶者、子2	358,200	6,005,000	354,000	5,842,000	163,000
地方機関課長	50歳	配偶者、子2	479,360	7,938,000	473,910	7,729,000	209,000
本府省課長	45歳	配偶者、子2	669,060	11,500,000	660,940	11,174,000	326,000
本府省局長	-	-	1,123,360	19,076,000	1,109,920	18,532,000	544,000
事務次官	-	-	1,475,040	25,048,000	1,457,120	24,329,000	719,000

INFORMATION

「伊藤圭介生誕200年記念展示会・講演会」開催のお知らせ

展示会「錦窠（きんか）図譜の世界 幕末・明治の博物誌」

開催日時：平成15年10月17日（金）～30日（木）
 10：00～17：00（土・日とも） 休館日10月23日（木）
 会場：名古屋大学附属図書館（中央図書館）展示室（4階）

講演会「博物誌の時代と伊藤圭介」

開催日時：平成15年10月18日（土） 13：00～16：00
 会場：名古屋大学附属図書館（中央図書館）多目的室（5階）
 講師：磯野 直秀（慶應義塾大学名誉教授） 「日本の博物誌と伊藤圭介」
 土井 康弘（国土館大学非常勤講師） 「日本初の理学博士の誕生」
 杉山 寛行（名古屋大学文学研究科教授）「伊藤圭介と医学」

主催 名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室
 後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

入場無料

問い合わせ先

名古屋大学附属図書館
 〒464 - 8601 名古屋市千種区不老町
 電話（052）789 - 3667（情報管理課庶務掛）
 E-mail shomu@nui.nagoya-u.ac.jp



INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（15年8月分）

	記事	月日	新聞等名
1	コーナーキック：私を何かにたとえたら 森田美弥子・教育発達科学研究科教授	8.1(金)	中日(朝刊)
2	本学事務局長 渡橋正博さん 東京医科歯科大学事務局長から4月に就任	8.2(土)	朝日(朝刊)
3	イラク攻撃で米に批判集中 「原水爆禁止2003年世界大会国際会議」代表あいさつ 沢田昭二名誉教授 「イラク戦争は国連憲章に基づく平和のルールを無視した行動」と強く批判	8.4(月)	中日(朝刊)
4	法科大学院 適正試験に1万8000人 東海三県では本学などが会場	8.4(月)	読売日経(朝刊)
5	飯田経夫名誉教授・経済学者 死去	8.5(火) 8.6(水) 8.13(水) 8.22(金)	中日(朝刊) 他6社
6	三和化学研の創立50周年記念事業 ノーベル化学賞を受賞した野依良治教授による特別講演などを開催	8.5(火) 8.8(金)	中日(朝刊) 日刊工業
7	第42回国立七大学総合体育大会硬式野球 本学など勝ち進む	8.5(火)	中日(朝刊)
8	地方の総合大法人化控え独自色で勝負 「ミニ名大にならぬ」合言葉	8.5(火)	朝日(朝刊)
9	地震を知る9：想定震源域に着目を 田所敬一・地震火山・防災研究センター助手	8.5(火)	中日(夕刊)
10	法科大学院シンポ「期待される法科大学院」実務家から貴重な生の声 和田肇・法学研究科教授はパネルディスカッションで「新司法試験の科目に拘束されては法科大学院のカリキュラムがゆがむ恐れあり」と指摘	8.6(水) 8.30(土)	読売
11	県立の大学を知の拠点に 有識者の意見を聞く「県立大学のあり方検討会議」の初会合 座長に奥野信宏・副総長を選出	8.6(水)	中日(朝刊)
12	「特別推進研究」16件選定 文部科学省・補助金を交付【特別推進研究】芝井広・理学研究科教授【特定領域研究】福井康雄・理学研究科教授、阿波賀邦夫・理学研究科教授【学術創成研究費】近藤孝男・理学研究科教授	8.7(木)	日刊工業

	記事	月日	新聞等名
13	パーキンソン病の発症を100%抑止する遺伝子治療薬を動物実験で確認 夏目敦至・附属病院遺伝子・再生医療センター助手が開発	8.8(金)	読売
14	小中高生対象 数学コンクール 本学など計5会場で開催 問題作成者の1人大沢健夫・多元数理科学研究科教授「受験技術の解き方は忘れて」	8.11(月) 8.18(月)	中日(夕刊) 中日(朝刊)
15	訃報 安野愈名誉教授 9日肺がんのため死去	8.11(月) 8.12(火)	中日(夕刊) 日刊工業
16	津島市長選 辞職の三輪氏なぜ当選 後房雄・法学研究科教授「指導力発揮可能か疑問」	8.12(火)	中日(朝刊)
17	学生之新聞：学生記者、本学3年丹羽亜衣などが問う マイペースって？ 自分の目線で好きなこと眺めて	8.12(火)	中日(朝刊)
18	改革のシラバス：医学系研究科修士・寺尾俊彦・浜松医科大学長 慌てず「オンリーワン」狙う	8.12(火)	中日(朝刊)
19	音羽の夫婦 医学部附属病院での生体肝移植が無事終了	8.13(水)	中日(朝刊)
20	高田広章・情報科学研究科教授は、独自開発したOSの普及を進めるためNPO法人「TOPPERSプロジェクト」を近く発足	8.15(金)	日経(朝刊)
21	マイクロソフト社のOSを攻撃する新型コンピューターウイルス「プラスター」感染被害 中部 “厳戒” 本学は100台感染	8.15(金)	中日(朝刊) 読売
22	教員らと意見交換する「名大サロン」一周年特別企画として、一般市民に公開 25日は藤木秀朗・文学研究科講師が講演	8.16(土)	中日(朝刊)
23	自己修復機能で元通りになる樹脂材料 武田邦彦・工学研究科教授の研究グループが開発	8.17(日)	日経(朝刊)
24	弁天池の在来種カメ保護に尽力 川原神社が理学部卒業・矢部隆さんと、研究を行っている農学部大学院生の岡田夕季さんらに感謝状	8.17(日)	毎日(朝刊)
25	文部科学省が科学版“情報機関”「研究開発戦略センター」を新設 センター長は野依良治教授	8.18(月)	読売

	記 事	月 日	新聞等名
26	改革のシラバス：松尾稔総長 基礎研究、実学を学術経営という観点から全体としてバランスよく運営することが大切	8.19(火)	中日(朝刊)
27	時日記：学生ベンチャー編 農学で起業目指すぞ！ 大学院1年・大沢恵明	8.19(火)	中日(朝刊)
28	踊ろまい！第5回どまつり参加チーム「快踊乱舞」本学学生中心	8.19(火)	中日(朝刊)
29	青色発光 第一発見者 赤崎勇名誉教授 研究者は、孤独でも未到の地を目指せ	8.19(火)	中日(夕刊)
30	理化学研究所と本学生命農学研究科が植物研究で今年4月学術交流協定を締結 今月25日、本学で初のシンポジウムを開催	8.19(火)	中日(夕刊)
31	高エネ機構の大型加速器Bファクトリー「裏粒子」存在の可能性もBファクトリーによる実験を提唱した三田一郎・理学研究科教授「単純な超対象性理論では説明がつかないように思われる」	8.20(水)	朝日(朝刊)
32	法人化される国立大学選び「学費」も決め手？ 本学「交付金減で70万円」試算も	8.21(木)	朝日(夕刊)
33	東京で開かれた朝日ジュニア・サマースクールで野依良治教授が講演「人間の知恵で、無から有を生み出せる」と化学の魅力を語った	8.23(土)	朝日(朝刊)
34	第10回腎不全対策キャンペーン講演会 前田憲志名誉教授ら3人が講演	8.23(土)	中日(朝刊)
35	学術研究助成 大幸財団・贈与決定 門松健治・医学系研究科助教授、小鹿一・生命農学研究科教授、杉田護・遺伝子実験施設教授、関華奈子・太陽地球環境研究所助教授など8件	8.23(土)	中日(朝刊)
36	インフルエンザ脳症 遺伝的要因を森島恒雄・医学部保健学科教授と東大教授が10月から半年かけ解析	8.24(日)	日経(朝刊)
37	浪川幸彦・多元数理科学研究科長の数楽、数が苦：全部で何試合？ポイントは文字式に表れる	8.25(月)	中日(朝刊)
38	研究室発：三矢保永・工学研究科教授 情報メカトロニクス 縁の下の技術復権に意欲	8.26(火)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
39	教育学部は愛知県生涯学習推進センターと共同で、後期授業の一部を市民に公開	8.26(火)	中日(朝刊)
40	医学部保健学科公開講座 テーマは「健やかに過ごすために」	8.26(火)	中日(朝刊)
41	特集医療相談：答える人 横田充弘・医学系研究科助教授、後藤百万・医学部附属病院講師	8.26(火)	読売
42	時日記：学生ベンチャー編 事業計画書執筆で格闘 大学院1年・大沢恵明	8.26(火)	中日(朝刊)
43	きらり：難民問題学び母国に貢献を カンボジアから来日、大学院博士課程1年・ラン・サリー	8.26(火)	中日(朝刊)
44	学生街ダンス：女の子同士 家で「まったり」最高 2年長谷川佳美	8.26(火)	中日(朝刊)
45	名古屋市交通局 12月13日に開業する地下鉄名城線 砂田橋 - 名古屋大学について平日昼間の運転間隔を8分にすることなど概要を発表	8.26(火)	中日(朝刊) 読売
46	遺伝子で独自のアプローチ 応用の前に基礎研究重視を 名誉教授・郷通子・長浜バイオ大教授	8.26(火)	中日(夕刊)
47	着衣障害者に楽々服 医学部保健学科の学生が完成させた	8.26(火)	中日(夕刊)
48	予知最前線：地殻変動観測 一億分の一度も見逃さず 地中の計器が角度変化測定 山内常生・地震火山・防災研究センター助教授	8.27(水)	毎日(朝刊)
49	訃報 泉亮太郎名誉教授 26日胃がんのため死去	8.27(水)	中日(朝刊)
50	医学部附属病院 血液中抗体濃度30倍超の患者 生体肝移植に成功	8.28(木) 8.29(金)	中日(朝刊) 読売
51	道路防災を考える 道路構造物保全検討委員会・構造物重点管理システム検討会委員長・山田健太郎・環境学研究科教授、道路防災対策検討委員会委員長・浅岡顕・工学研究科教授 に中部地方の道路防災に関連した問題点、対策などについて意見を聞いた	8.29(金)	毎日(朝刊)
52	Weekly 教育：本学の来年度入試センター試験は文系学部6教科7科目、理系学部5教科7科目に増やす	8.31(日)	朝日(朝刊)

INFORMATION

名古屋大学広報用マークのデザインについて



名古屋大学広報委員会では、平成16年4月の国立大学法人化をひかえて、全学の広報誌等の見直しと広報活動の一層の充実を図ってきました。その第1歩として全学広報誌「名古屋大学プロフィール」のコンセプトと内容を一新しました。同時にそのコンセプト（“scholarship community”「問い学ぶ人々」）にふさわしい新広報ロゴデザインを作成しました。

この新しい広報ロゴデザインにつきましては、広報等に限って使用するものであり、学章にかわるものではありません。

なお、これまで長年にわたり愛用されている学章は評議会で正式に制定されたもので、全学的な公式行事等に活用するとともに、各部局においても適宜活用を図っていくものです。

お詫びと訂正

名大トピックス No.123号（平成15年 8月29日発行）

22ページの『愛知県地区国立学校等新任係長研修が開催される』に誤りがありました。「看護婦長」を「看護師長」と訂正させていただきます。慎んでお詫びします。

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052（789）2016

FAX：052（789）2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

伊藤圭介胸像および「伊藤圭介先生誕生之地」碑

名古屋を代表する世界的な著名人として「文においては伊藤圭介、武においては豊臣秀吉」ともいわれる伊藤圭介は、享和3(1803)年1月名古屋呉服町(現名古屋市中区丸の内3丁目10番)の医者之家に生まれました。植物学に興味をいだき、文政9(1826)年2月宮(現熱田区)で、江戸に赴く途中のシーボルトに、植物の学名の点検を依頼したのを機に、翌年長崎に赴き、シーボルトの下で植物学を学びました。「泰西本草名疏」を訳述刊行したほか、多数著書を出しています。また医者としても尾張藩で種痘を始めるなど、この地域の医療に尽しました。

明治政府から大学に出仕するよう命じられ、明治3(1870)年11月に名古屋を離れ上京、明治14(1881)年東京大学教授に任ぜられ、同21(1888)年日本初の理学博士の学位を受けました。明治34(1901)年に逝去しています(享年99歳)。

伊藤は上京する直前、名古屋藩に西洋医学の病院と学校をつくるよう建議し、これが現在の名古屋大学の前身となる仮医学校・仮病院の設置となりました。いわば名古屋大学の生みの親といえます。このほか仮医学校・仮病院の後身校となった愛知医学校の教諭奈良坂源一郎による愛知教育博物館建設にも寄与しています。

第3代名古屋大学総長勝沼精蔵は伊藤の顕彰に努め、彼の強い要請によって昭和30(1955)年に、遺族から「錦築植物図説」ほか遺品188冊が附属図書館へ寄贈されています(伊藤圭介文庫)。また同じ頃伊藤圭介座像(鶴舞中央図書館前)や「伊藤圭介先生誕生之地」碑(上述生誕地、写真右)が、勝沼の組織した伊藤圭介顕彰会によって建てられています。そのほか東山植物園(写真中)や地元小学校に胸像、平和公園に碑など、名古屋市内各地に記念碑像があります。



伊藤圭介



伊藤圭介胸像



「伊藤圭介先生誕生之地」碑

本文の記念碑については、伊藤圭介生誕200年記念展示会(p22参照)において詳しい展示がありますので、ぜひ一度ご来館下さい。

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物等に関する情報をお持ちでしたら、
大学史資料室(052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp)へご連絡下さい。